



Marutomi World

[Home](#)[会社案内](#)[会社概要](#)[ご案内](#)[製品情報](#)[新着情報](#)[リンク](#)[E-Mail](#)

マルトミです

4. 5月号 (隔月刊)

日ごろのご愛顧に心より御礼申し上げます。

お知らせ

- ☆ ただいまショールームでは春の特別セールを実施中です。新型ミニ耕うん機や草刈機などを多数 お買得価格で展示していますので、ぜひお出かけ下さい。また、PDS倭工房によるクワや刃物の展示販売もしていて、クワの柄やくさび等の部品類も揃えてあります。
- ☆ 春の農繁期対応として4月13日より6月6日までは日曜・祝日も休まず営業致します。修理に関しても、農業機械はもちろん、それ以外でもエンジン付きの機械でしたらたいいものはおせますので、どうかご相談下さい。
- ☆ この時期、中古のミニ耕うん機を希望されるお客様が多くおられます。良い中古品も次々に出て来ているのですが、すぐに売れてしまうためホームページでご案内などできない状況です。大変申し訳ありませんが、在庫状況は電話などでお問合せいただくか、こちらにお出でのうえご確認下さるようお願い致します。また、その際に在庫がない場合でも、ご希望のタイプやご予算をお聞かせ下されば、出てきたときに優先的に対応させていただきますのでよろしくお願い致します。



マルトミカレンダー（2月～4月） 赤色は休業日

4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
5	6	7	8	9	10	11	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
12	13	14	15	16	17	18	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
19	20	21	22	23	24	25	24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
26	27	28	29	30			31													

(株)マルトミ 本社: 943-0892上越市西田中236-9(企業団地内)

TEL(025)524-1181 FAX(025)524-1184

E-mail: info@maru-takada.com http://www.maru-takada.com

5月までミニ・ティラー下取りセール中！！

古くなったミニ・ティラーを、かいらず・コツいらずのロータリー耕うん機に交換しませんか。ただいまホンダとヤンマーのロータリー耕うん機をご購入いただくと、どんなミニ・ティラーでも定価から**30,000円**で下取りいたします。

(但し、FF300とFU400については20,000円が下取り価格となります)

ホンダのサラダFF500Lなら



217,350円 - 3万円
→ **187,350円**
(うねたてセット付 208,550円)

ホンダのラッキーFU650Lなら



239,400円 - 3万円
→ **209,400円**
(うねたて器付 222,800円)

ヤンマーポチMRT600iRZなら



254,100円 - 3万円
→ **224,100円**
(うねたて器付 241,500円)

これらはいずれも一軸正逆転ロータリーの耕うん機で、固い土でも前に飛び出すことなく、らくらく・深く・きれいに耕うんできます。現在お使いのミニ・ティラーではうまく耕うんできない、使うのに力があるし疲れる、とお考えでしたらぜひこの機会にご検討願います。

この春 ホンダとヤンマーから まったく新しいミニティラー登場

ガスで動く ホンダのピアンタ

99,800円



田舎セット品には別売です。

ふつうのガスポンベで使え、ガソリンは必要ありません。車に積んで運べるようにロータリーのケースと車輪が標準装備です。小型なので土の条件の良い家庭菜園向きです。

電気で動く ヤンマーの QT10e

68,250円



売)

電気で動き、ガソリンは必要ありません。充電はバッテリーをはずしてコンセントにつなぐだけ。持ち運びもとてもカンタンです。商品の実物は当社ショールームでご覧下さい。(今期モニター販売)

お客様訪問記 8.

上越市 三和区 富永幸司 様

自然農法による農業の傍ら、湖畔のクラシックコンサートや古民家でのそば打ち会などさまざまな地域活動に取り組まれている富永幸司さんをお訪ねしました。



ヤンマーのうねたてポチを使用されていて、「軽くて小回りが利きうね立てでもでき、手軽に使えて便利、範囲を決めて耕すのにとっても便利です」とおほめの言葉をいただきました。畑を見渡すと梅、スモモ、レンギョウの花が咲き、ギョウジャニンニクが1番に自分の居場所を確保していました。

作業小屋もお気に入り。畑仕事の休憩に一服、一日中いても飽きないスペースのようです。話し好きで何にでも興味を示す富永さんのまなざしはまるで少年のようでした。機械操作はととても大胆なのにビックリです。そばでやさしく見守る奥様もステキでした。

お忙しい中、どうもありがとうございました。

(まゆみ記)



春のスペシャルデーにご来場いただき有難うございました。

3月14日・15日に実施したマルトミ春のスペシャルデーは、初日の土曜日は雪混じりの風が吹きまくる大荒れの天気となり、日曜日にも天気は回復したものの肌寒い一日でしたが、そんな悪天候にもかかわらず、2日間で350名を超えるお客様がご来場くださいました。本当に有難うございました。

今回一番の人気はミニ耕うん機で、中でもテレビCMなどで話題のホンダのガスパワー耕うん機「ピアンタ」を目当てに来られた方が大勢おられました。ほかのミニ耕うん機も多数御成約いただき、家庭菜園ブームはいよいよ本物のようです。

今回は7月11・12日にマルトミ感謝祭を開催致します。日ごろの感謝を込めて、今回も楽しい企画をいろいろ考えていますので、どうかまた皆様でお出かけ下さい。



西田中公園バタフライガーデンのいまの様子

今年は記録的な小雪で春の訪れも早く、3月19日に市内のお客様の畑でモンシロチョウ、キチョウ、ルリシジミがいっしょに飛んでいるのを見たのが蝶の初見でしたが、その後気候が変わって時ならぬ雪が積もったりして、高田公園の桜の開花もちょっと遅れそうです。

隣の公園のバタフライガーデンもまだ殺風景そのものですが、それでもよく見ると春は始まっていて、コナラの根元にはウマノズクサが芽を出していました(写真)。株も大きくなったので、今年こそは匂いに惹かれてジャコウアゲハもやってきそうな気がします。



上越の面白い生き物 56.

真珠色の輝き ウラクロシジミ

前回このコーナーでマンサクをご紹介しましたが、今回は、幼虫がマンサクの葉を食べて育つウラクロシジミという蝶について書きたいと思います。

ウラクロシジミは、その名の通りハネの裏が黒っぽい色をした小さなシジミチョウです。名前からしてなんとなく地味な姿を想像してしまいがちですが実はそうではありません。裏とは一変 ハネの表は一面真珠光沢のある純白色でとても美しく、日本にすむおよそ250種類の蝶の中でこんな色をしたものは他にいません。但しそれはオスだけで、メスは灰色がかった地味な色をしています。おもしろいことに、オスとメスとでは表がこんなに違っていても裏面はまったく同じで、これはオス・メスで模様が違う蝶の多くに共通した特徴です。

日本の蝶の中にミドリシジミ類というグループがあり、愛好家の間ではゼフィルス(Zephyrus)というはこのグループの古い属名で、ラテン語で西風という意味だそうです。緑や青色の金属色に輝くもの、鮮やかな橙色をしたものなど美しい種類がそろっていますが、その中でもウラクロシジミは独特の存在です。また、マンサクが食樹(幼虫の餌となる植物)というのも変わっていて、日本の蝶ではウラクロシジミただ1種だけです。

私のこの蝶との思い出は、中学生のとき、そこにいと教えられて出かけた朝日山(南葉山の隣の山)で本当に見つけて採集でき、嬉しくて山を駆け下りてきたことと、大学時代に、当時ゼフィルスのメッカと呼ばれていた鳥取県の大山の麓で、夕暮れたくさんのお星たちがまるで白い紙吹雪のように舞い飛ぶ様子を見てただただ感動していたことです。特に珍しいわけではないこの蝶との出会いは他にもたくさんあったはずなのですが、いまはこの2つのシーンだけが懐かしく目に浮かびます。

こんなウラクロシジミを実際に見てみたいと思ったら、6月の上旬から下旬の間に、夕方、五智公園に行ってみて下さい。そうして公園の上にある遊歩道をぶらぶらと歩いていけば、たぶんあちらこちらでキラキラと輝いて飛んでいる姿を見ることができそうです。(ミ)



